

「陶器瓦は地震に弱い」は誤り

全陶連、風評被害を訴える



野口安廣理事長

「陶器瓦の屋根は重たいから地震が起きると家が倒れる、こんな報道は誤りだ」。陶器瓦のメーカー・施工店などで構成される全国陶器瓦工業組合連合会（東京都千代田区）は4月26日、瓦屋根が地震に弱いかどうかの実験・ミュレーション結果を発表した。調査によれば、耐震補強していない家では、瓦が重くても軽くとも地震の被害を受けることが分かった。

同会では大震災発生時に「瓦が重いから住宅が倒壊した」との報道を問

題視。小林秋穂専務理事は「風評被害により、瓦から軽量屋根に変えるなど『瓦離れ』が起きていた」と指摘する。同会によると1994年の瓦の出荷量は12億8000万枚あつたが、2016年は3億6000万枚に減少。新築着工数が減っていることも関係しているが、大地震時の誤解を生む報道もかなりの影響がある。

62）、④は一つ目の瓦屋根の家の壁を増やした家（評点0・62）、③は一ヶ月前に葺き替えた家（評点0・62）、②は一つ目の家の瓦をスレートに葺き替えた家（評点0・62）、①は一つ目の家を金属屋根に葺き替えた家（評点0・62）。これら

問題ないことが実証されているが、古い耐震性がない建物だと被害が起こってしまう。そのため瓦

が問題だと誤解を受けてしまっており、これを払拭したい」と話す。

全日本瓦工事業連盟の薄井幸夫理事長はこう話す。「瓦屋根自体は非常に長持ちする材料で、瓦の地震波を用いて観測し

ングコストが良い建材であるが、このような報道によって、例えば復興住宅を手掛ける際、役所や建築士の方から瓦が避けられるケースもある」

たところ、①～③のすべての住宅が倒壊した。④は倒壊しなかった。

小林氏は「建物の耐震補強設計をせず、安易に軽量な屋根に葺き替えても、大地震時には被害を受ける可能性がある」と指摘。耐震補強を行えば陶器瓦でも問題はないと言強調した。野口安廣理事長は「『ガイドライン工法』で施工すればなんら問題ないことが実証され

LIXILリフォーム事業部は、秋のリフォームコンテスト2016の表彰式を沖縄で開催した。「リフォームを贈ろう。」ストーリー賞部門の最優秀賞には、グリーンライフ産業の「グランド工房宗像店」（福岡県福岡市）が輝いた。

LIXIL秋のリフォームコンテスト2016

ストーリー賞最優秀は「グランド工房宗像店」



▲表彰式は沖縄で開催

グリーンライフ工房宗像店は、秋のリフォームコンテスト2016の表彰式を沖縄で開催した。「リフォームを贈ろう。」ストーリー賞部門の最優秀賞には、グリーンライフ産業の「グランド工房宗像店」（福岡県福岡市）が輝いた。